ボランティア活動紹介

ほっとボランティア

東日本大震災における支援活動報告
～第2回岩手県大槌町社協での活動～

4月の支援活動（社協だより6月号に掲載）に引き続き、7月31日～8月7日の8日間、大槌町社協へ2回目の職員派遣を行い、災害ボランティアセンターの業務支援を行いました。

今回は、復興に向けて活動している災害ボランティアの活動を中心に報告します。

■災害ボランティアの状況

ボランティアセンターは、住民ニーズ（要望）とボランティアをつなぐ役割を持っています。現在は本部と、サテライト（支所）の2ケ所で、毎日平均200人のボランティアを派遣しています。

▲大槌町復興支援ボランティアセンター
※９月から名称が変わりました

■派遣された職員の感想

震災から4ケ月後の派遣でしたが、町のガレキ撤去やライフラインの復旧の早さに驚きました。現地社協でもサロン開催や、仮設住宅を全戸訪問してニーズの把握をするなど、多くの人が復興に向けて協力し合っており、力強さを感じました。

■災害ボランティアの活動

ボランティア活動は、住民からのニーズを元に活動を行います。前回4月の時点では、床下の泥出や、使えなくなった家財の運び出しなど、急を要する住民ニーズが多くありました。

8月では「菜の花を咲かせたい」「お墓をきれいにしてお盆を迎えたい」など、本当の意味での復興に向けたニーズが多くなってきました。

▲大槌河川敷に夢を咲かせる「菜の花プロジェクト」

▲今年も元気な姿で川をのぼってほしい「鮭プロジェクト」

▲お盆を迎えられるようにお墓の泥、ガレキ撤去作業

▶「ひょっこりひょうたん島」が町の結束力を強めています

中津川市社協では、今後も義援金募集や災害ボランティア情報提供などで東日本大震災への復興支援を継続していきます。引き続き市民のみなさまのご理解とご協力よろしくお願いします。

※中津川市社協ホームページでは、さらに詳しくご覧いただけます。

誰にでもやさしいまつりを！

8月12日、中山道・中津川おいでん祭納涼花火大会にて、毎年恒例となった「やさいしいまつり」が行われ、障がいのある方や高齢者とボランティアなど約100人のみなさんが参加されました。

この「やさしいまつり」は、中津川青年会議所、ひがし福祉会 飛翔の里が中心となって、普段なかなかお祭りに出かけることができないみなさんに楽しんでいただきたいという目的で、アピタ屋上をお借りし、花火やボランティアの踊り鑑賞を行っています。

ボランティアのみなさんは車イスの介助、会場の準備、踊りの披露、参加者との交流などに参加されました。まつり実行委員長加藤英和さんからは「多くの市民ボランティアのみなさまのご協力で、とてもやさしいまつりになりました。」と感謝の言葉がありました。

▲主旨に賛同した多くのボランティアが参加

中学生福祉ボランティア基礎講座
～中学生が福祉の基礎を学ぶ～

8月4日に自らボランティア活動を実践していく意欲を育てることを目的に『中学生福祉ボランティア基礎講座』をにぎわいプラザで開催しました。

市内中学校9校から52人が参加

車イス体験

参加者の感想

- ボランティアは自分の身近なものから高度なものまで幅広いことを知った。
- 車イスは操作方法さえ知っていれば段差も越えられることがわかった。
- 押すよりも乗る方が怖かった。
- 目線が低くなったら普段使いなれているものが不便だった。
- 何気なく置いてあるものがとても邪魔に感じた。
- ユニバーサルデザインという誰にでも使いやすい工夫があることを知った。

アイマスク視覚障がい者体験

参加者の感想

- アイマスクをした時に、相手の声かけが沢山あると安心したので自分が介助した時に沢山声かけをして相手が不安にならないように気をつけた。
- アイマスク食事体験では、どこに何があるのかわからないことに恐怖感があった。
- 箸を探すことやお茶を探すこと、一度掴んだおかずを次も掴むことなど、当たり前すぎる日常が見えないとこんなに不便だとは知らなかった。

グループワーク

参加者の感想

- 幅広く福祉について学ぶことができて良かった。
- どんなことに不便を感じるるのかを体験したので、今後困っている人がいたら助けてあげたい。
- コミュニケーションの大切さがわかった。
- 相手を信頼することが大切だと思った。
- いろいろな介助方法を学んだのでこれからの生活に活かしたい。
- 最初は不安だったけど他校の生徒との交流になったので良かった。
- 楽しく体験ができたので良かった。

手話体験

参加者の感想

- 昔学校で習ったのにすっかり忘れてしまっていたが、今日挨拶と自分の名前が手話で表せるようになった。今度は忘れないようにして、初めて会った聴覚障がいのある方にでもきちんと挨拶したい。

この講座は赤い羽根共同募金の配分を受けて実施しました

高校生福祉ボランティア基礎講座
～地域に密な高校生になるために～

8月8日～10日までの3日間、にぎわいプラザで市内高校生を対象とした「高校生福祉ボランティア講座」を開催し、4人が参加しました。

今回の講座は、「ふれあいサロン」に参加することによって、地域やそこで暮らす方々に関心を持っていただくことを目的に開催しました。

ステップ1～学びましょう～

地域生活の中には高校生がボランティアとして活躍する場所が沢山あります。中でも「ふれあいサロン」は地域の支え合いにより運営されています。そんな場所に高校生ボランティアがいたら、華やぐ、明るくなる、元気になる、嬉しくなるのではないでしょうか。

地域で求められるボランティアを目指して「ふれあいサロン」を楽しくするためのレクリエーションや健康体操などの方法を学びました。

▶中津川レクリエーション協会福祉部と五感健康法推進員のみなさんに教えていただきました

ステップ2～作りましょう～

今回は「ふれあいサロン」に参加する高齢者の方々をさらに元気にするような出前講座を企画しました。

▲出前講座を考えました♫

ステップ3～披露しよう～

尾鳩区・会所ケ丘区・実戸区・中村区の4つの「ふれあいサロン」で出前講座を披露しました。脳トレ漢字クイズや後出しジャンケンの他に「うみ」や「ふるさと」などの歌に手の運動を合わせた体操を行いました。

ふれあいサロンに参加した高齢者は「高校生のような若くて元気な方が地域の高齢者に目を向けてくれることは頼もしく感じるし、何より嬉しい。」と話しました。

また、ふれあいサロンを支えている役員さんやボランティアのみなさまは「高校生は遠くの高校に通っていたりと地域から離れがちだけど、住んでいる地域の方々を気にかけてくれると嬉しい。将来的に地域に根差した人になってくれるとありがたい。」と話しました。

▲「あんたがたどこさ」で手遊びをしました

▲「うみ」を歌って上半身の体操をしました

高校生の感想

- 地域の方が地域の方を支えている「ふれあいサロン」を初めて知ったので今後も何かで関わりたいと思った。
- 地域のみなさんが楽しそうで、明るくて輝いて見えました。
- 最初は不安だったけど、楽しさを共有していると感じて心からホッとしました。
- 自分が作った出前講座で参加者を笑顔にできたことに喜びを感じました。「今日は楽しかったよ。ありがとう。」と言われたことが一番嬉しかった。
- 今回学んだレクリエーションが今後いろいろな場面で使えるので良かった。

▲充実したよい体験になりました♥

この講座は赤い羽根共同募金の配分を受けて実施しました